

2020年度 学校関係者評価報告書

公益財団法人茨城県看護教育財団
茨城県結城看護専門学校

「2020年度学校評価 自己評価」を基に、学校関係者評価を行いました。その結果を以下のとおり報告いたします。

1 2020年度 学校関係者評価者（五十音順）

令和3年3月26日（金）

出席者：委員2名 城西病院 看護部長 青木 由美
結城病院 看護部長 鈴木 和子

2 重点目標の評価に対する各委員からの意見等

(1)重点目標1 新入生の定員及び総定員の確保

意見：高校訪問及びガイダンスの具体的な活動状況及び受験者数の傾向を聞きたい。

回答：主に茨城県西地区の高等学校及び栃木県小山市近郊の高等学校に訪問している。今年度は新型コロナ感染拡大による緊急事態宣言で4～5月の訪問が実施できなかったが、6月から精力的に訪問を実施した。進路ガイダンスは、業者から依頼はほぼ参加している。

過去5年の受験者数は著しく減少している。入試種別も7種類実施し受験生確保として対応している。今年度は社会人の受験者が昨年度の2倍であった。入学生確保は学校としても課題である。

(2)重点目標2 看護師国家試験の全員合格を目指す

意見：今年度、新型コロナの影響で臨地実習が出来なかったが、国家試験対策はどのように実施したのか。新型コロナ感染拡大による国家試験の出題傾向は、変化があったのか聞きたい。

回答：早期から意識づけを開始した。学内実習において、臨場感が得られ患者の心理を理解出来るよう工夫した。領域毎の学内実習では国家試験対策として、指導教員が問題を解説し基礎力を付けた。国家試験問題の出題傾向は、例年とほぼ変化はなかったが、全国の受験生の傾向として、必修問題は満点の受験生の割合が多かったという情報が得られている。

(3)重点目標3 教育力の向上

意見：今年度のポイントが下がっている要因は何と考えているのか聞きたい。

回答：新型コロナ感染拡大の影響を受け、カリキュラム進度の調整や臨地実習が学内実習に変更となったことにより、各教員の業務量が増えた。全教員で連携をして取り組んだが、学会や研修会の参加の機会がなかったことが要因である。今後はオンライン研修などを活用し、教育力を向上できるよう整えていきたい。

意見：次年度のカリキュラム改正の主旨について及び貴校の状況を聞きたい。

回答：総単位数を97単位から102単位に増えた。総時間数の規定はない。改正の大きな特徴として、対象や療養の場の多様化に対応できるよう「在宅看護論」を「地域・在宅看護論」に名称を変更し、内容を充実することになった。他に情報通信技術（ICT）の活用の基礎的能力やコミュニケーション能力の強化に関する内容を充実すること。臨床判断能力等に必要の基礎的能力の強化をするなどが主旨である。今年度申請のため、さらに具体的に科目内容を検討していきたい。

他意見：結城市内の地域包括支援センターが3カ所あるため、是非実習ができると良い。地域の高齢者がどのように生活をしているのか、介護予防の具体的な支援について様々な職種が連携をとっている状況が学べる機会になる。是非実習病院として協力していきたい。

(4)重点目標4 県内就業率の維持・向上

意見：新型コロナ感染拡大により就職活動に影響を受けた状況があるのか聞きたい。

回答：最終的に100%就職できたが、インターンシップが中止され、臨地実習が実施できない状況であったため就職先の選択に影響を受けた学生もいた。学生の特性に合った施設でキャリアが積めるよう就職支援していきたい。

(5)重点目標5 組織の効率化及び効果的な運営の推進

意見：6-47組織の整備、6-55教職員の協働意欲の2項目が下がっている。その要因を聞きたい。

回答：新型コロナ感染拡大による学内実習への変更及び実習内容の見直し・組み換え、改正カリキュラムの編成会議等により、時間外勤務での対応が多かった結果である。さらに専任教員の療養休暇や介

護休暇により業務に影響が生じた。次年度は、組織で教員を育成出来るようワーク・ライフ・バランスを目指して業務調整したい。

3 評価項目（大・中・小項目）に対する各委員からの意見

(1)教育理念・目標：中項目 1-2) 将来構想

意見：平成5年の創立以来、結城市内及び県西地域の看護師養成校として、多くの卒業生を送り出し、病院にとっても非常に大きな役割を担っているため、更なる学校運営の継続を望みたい。

(4)教育活動：中項目 4-2) 教育方法 小項目 4-24)

意見：オンライン授業への対応とあるが、今年度のオンライン授業の実施況及び学生の反応を聞きたい。

回答：今年度は感染拡大地域に勤務・居住する講師約10名からオンライン授業を実施した。学生もオンライン授業は初めての体験であり、真剣に参加していた。一方で、学生の反応が得られにくく一方通行になりやすいため、各講師は授業方法を工夫してくださった。ICT活用の推進に対応するため、令和3年度から電子教科書を導入し、校内のWi-Fi環境を整備している。教員もICTに対応できる技術を習得することが課題である。

中項目 4-4) 指導者の確保・育成

意見：貴校の教員は茨城県・結城市・実習病院等からの派遣であり、新任教員の割合が高いことが挙げられる。学校側が望む専任教員の要件を聞きたい。

回答：当校の学校運営は実習施設からの派遣協力により成り立っており、これまでも学校運営に多大なる協力を頂いていることに感謝したい。病院と学校では業務が変わり、授業や学生対応など新しい対応が必要になってくる。それまでの経験の中で学生指導などの経験があると学生のイメージは付きやすい。また、自分自身の看護観が語れ、実践力があることも必要と考える。今後も中堅教員を中心とした新任教員の育成が課題である。

中項目 4-5) 学修成果

意見：卒業生が来校する頻度（時期・人数）や理由は何か聞きたい。

回答：主に新卒者が来校する。3ヶ月から半年後に同じ勤務先に就職した学生同士で来校することが多い。職場での出来事や悩みを表出している。以前の担任や他教員が対応している。今後は、卒業生のホームカミングデイなどの企画も検討していきたい。

(5)教育環境：中項目 5-1) 教育環境の整備 小項目 5-37 校舎の整備

意見：1階の学生ホールの活用状況及び今後の整備状況について聞きたい。

回答：今年度、新型コロナ感染拡大防止のため分散して昼食を摂取することを進めた。学生ホールに電子レンジ及び電気ポットを設置し、教室以外で昼食を摂取できる場所を整備した。また、グループワークや個人学習で利用する際の寒さ対応では、大型ストーブや衝立を設置した。夏場は室温が高くなるため今年度予算でシーリングファンを設置した。次年度にはエアコンを設置し学生ホールがさらに活用出来るよう対応する予定。

小項目 5-38 福利厚生

意見：「週3回のお弁当販売」が導入・開始された経緯について聞きたい。

回答：学生の声に対応して導入した。1年次社会学での授業において学校への要望で、昼食時の環境改善を望む声があり、結城市商工観光課の協力を得て実現した。学生の要望に対応していくことが、魅力のある学校につながる。ホームページなどを活用し、情報発信していきたい。

4 外部アンケートに対する各委員からの意見

1)実習指導者対象の公開授業

意見：・看護学校で行われている授業や演習の見学・参加することは、スタッフにとっても有意義である。

実習指導に生かしていきたいという意見もあり、是非継続して欲しい。

・保護者対応の公開授業にも、病院スタッフを参加させたい。学校で実施している教育活動を実際に見学することにより、教員のイメージもつき教育に興味を抱く機会になると考えられる。

回答：次年度も継続する。公開授業の門戸を広くし、実習指導者のニーズに対応できるよう検討したい。

5 その他（学校への要望や感想など）

今回の評価に参加し、教育の実態をより詳しく知る機会となった。学校運営評価（自己点検・自己評価）は、毎年継続されて取り組んでおり、適切・概ね適切な評価を得られている。

看護教育では、臨地と学校の協力が重要であるため、病院へのご意見もいただきながら継続して連携強化していきたい。在校生及び卒業した学生を大切に育てていきたい。